

1 「まちなかミュージアム」と「拠点施設」の想定活動イメージ

まちなかミュージアム

市民にとって身近な文化や芸術に関する接点を増やし、新たなミュージアムがもたらす効果を地域や生活に波及させていく

既存の市内他施設を活用した展示等の取組により、市民と新たなミュージアムとの接点を増やし、新たなミュージアムがもたらす効果を地域や生活に波及させていくことを目的として、親しみやすさを意識しながら様々な取組を展開していく。

— 想定活動イメージ —

- ① 市民にとって身近な場所に出向き、アウトリーチ活動を積極的に行う。
- ② 市内全域の既存公共施設や民間施設の余剰床等の一部を活用した企画展示やワークショップをはじめ、野外環境を活用したプログラム等を行う。
- ③ プログラム内容によっては学芸員は常駐せず、市民に自由に鑑賞・体験してもらえるような場とすることも想定。
- ④ 基本的にはプログラムごとに開催期間を設定した有期のものとする。また、場所や内容についても特定はせず、柔軟な活動展開を図る。
- ⑤ 複製またはデジタル・アーカイブを積極的に活用する。
- ⑥ 商業施設や企業、社会福祉施設など、多様な主体と連携して活動を行う。

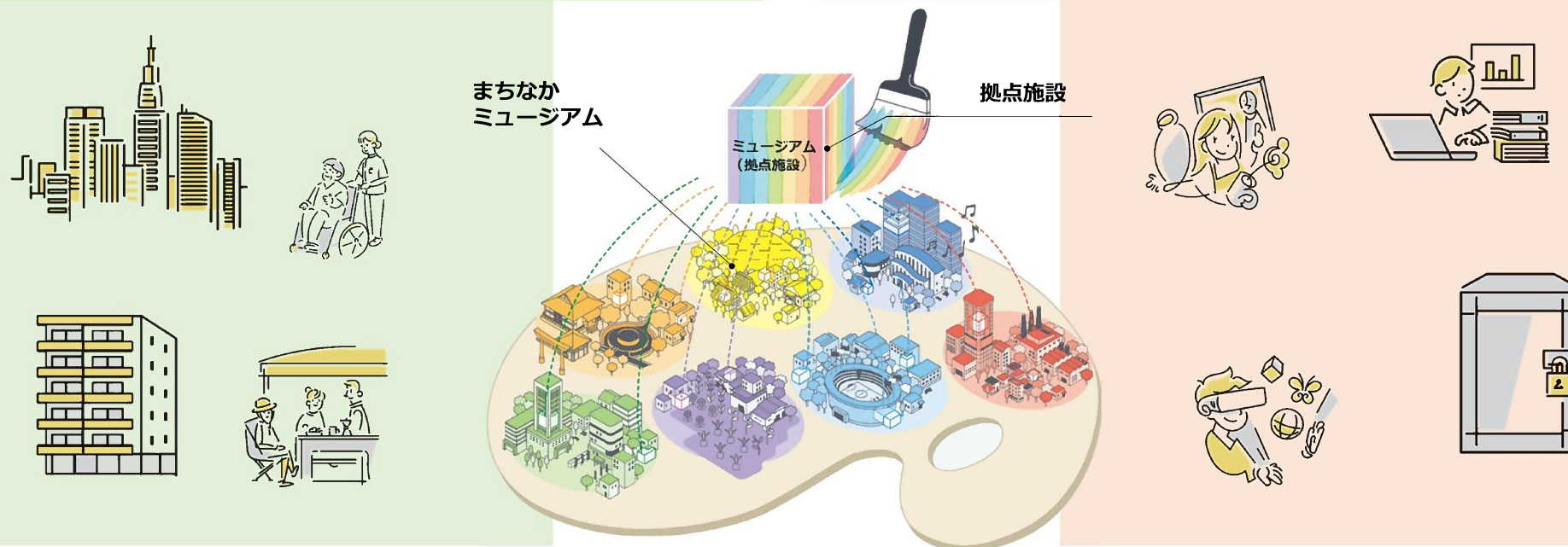
拠点施設

来館することで得られる経験や、デジタルではない「リアルなモノ」に出会える機会を提供

1か所に集約する必要があるスペースや一定の大きさが求められる空間を適切な規模で整備し、市民に対して、来館することで得られる経験や、「リアルなモノ」に出会える機会を提供し、限られた空間を有効活用して取組を展開していく。

— 想定活動イメージ —

- ① 学芸員が常駐し、収集・保管・調査研究・展示・修復など、資料・作品の収蔵や保存に関わる基本的なミュージアム活動を行う。
- ② 収蔵品のみではなく、様々な体験プログラムの提供により、市民が本物に触れる機会の創出や体験・体感できる場とする。
- ③ まちなかミュージアムでの活動内容の調整や方向性の検討拠点となる。
- ④ “ことラー”の活動の場となり、文化芸術を通じた様々なつながりを生み出す拠点となる。
- ⑤ 文化的エリアの価値向上を図るため周辺の文化施設等との連携策を検討実施する。
- ⑥ 定期的にミュージアム事業の内容検証を行い、求められているミュージアム像への到達度を把握し、対策を実施する。



「まちなかミュージアム」と「拠点施設」の考え方について

2 「まちなかミュージアム」と「拠点施設」の機能分担及び時点ごとの活動イメージ

場所	機能	STEP 1 現在 ○博物館・美術館活動を部分的に継続 ○ミュージアムの状況を修復業務と併せて発信	STEP 2 開館前 (基本計画策定以降) ○新たなミュージアムで実施する業務の試行実施 ○博物・美術業務の基盤となる人材育成と交流のための情報プラットフォームづくり	STEP 3 開館後 ○博物・美術業務の全面的再開 ○開館前期間に蓄積した活動や情報プラットフォームの活用拡大
まちなかミュージアム	調査研究		● 自主研究等を行っている団体とのネットワークの構築	● 市民連携による地域の調査活動
	修復	● 修復状況の定期的な発信	● 修復状況の定期的な発信	(活動を拠点施設に移転)
	展示	● 市の施設を活用した小規模企画展を実施 ● デジタル・アーカイブを活用した展示・講演	● 民間・公共施設を含む多様な場で企画展やWSの実施 ● デジタル・アーカイブを活用した展示・講演 ● コレクションカードを活用した企画展やWSの実施	(活動を拠点施設とすみわけ) ● 民間・公共施設を含む多様な場で企画展やWSの実施 ● デジタル・アーカイブを活用した展示・講演 ● コレクションカード等を活用した企画展やWSの実施
	教育普及	● 小・中学校へ出張プログラム ● オンラインプログラム	● 小・中学校へ出張プログラムやコレクションカードの活用 ● デジタルコレクションを活用したオンラインプログラム ● 公共・民間など多様な施設でのアウトリーチ活動実施 ● “ことラー”が主体となった活動の実施	(活動の一部を拠点施設に移転) ● デジタルコレクションを活用したオンラインプログラム ● 公共・民間など多様な施設でのアウトリーチ活動実施 ● “ことラー”が主体となった活動の実施
	地域貢献	● コレクションに関連した史跡等を活用したまち歩きなどの観光事業の実施 ● 文化・芸術分野と親和性の高い市他部局や区施策の調査【未実施】	● 関係局区と連携した事業の検討・実施（社会福祉・産業など） ● コレクションに関連した史跡等を活用したまち歩きなどの観光事業の実施	● 関係局区と連携した事業の実施（社会福祉・産業など） ● 市全域を対象とした文化観光事業の実施
	交流		● 上記事業での参加者等へのネットワーク参加の促し	● 外部施設・機関との連携事業の実施
	人材育成		● 上記事業での参加者等へのネットワーク参加の促し	
拠点施設	収集	● 現在の収集方針に基づき、資料・作品を収集	● コレクションの収集方針の運用・見直し ● コレクションの収集方針に基づく資料購入・寄贈調整	● 収集の継続と他機能との連携効果の検証
	保管	● 保管倉庫を借りて収蔵品を保管	● 保管倉庫を借りて収蔵品を保管 ● デジタル・アーカイブの方針検討・整備に向けての体制構築	● 資料を保管倉庫から移設し、館内の収蔵庫で管理 ● 「見える収蔵庫」(ヴィジュアル・ストレージ)などの活用 ● デジタル・アーカイブの構築
	調査研究	● 収蔵品を活用した調査研究の実施	● 収蔵品を活用した調査研究の推進及び開館以降の展示等に向けた調査研究の実施 ● 既往展覧会での集客力の傾向や紀要等による調査結果を考慮した研究分野の洗い出しと対応の検討	● 収蔵品を活用した調査研究や他館と連携した研究の実施 ● 調査研究方針の見直しと運用
	修復	● 修復作業を実施 ● 修復ノウハウの蓄積	● 修復作業を実施と今後の修復対応方針の策定 ● 市民・専門学生向け修復WSの実施 ● 修復ノウハウの蓄積と情報発信	● 館内で修復作業を実施 ● 市民・専門学生向け修復WSの実施 ● 修復ボランティアの育成 ● 修復状況の定期的な発信
	展示			● 大規模企画展や巡回展の実施 ● 展覧会の開催毎の評価システムの検討 ● まちなかミュージアムの活動成果を発信
	教育普及	● 教育プログラムの検証【未実施】	※グレー部分は、仮設事務所（麻生区上麻生）での実施を想定	
	地域貢献			● 社会科教育推進事業のプログラム見直しと受入再開 ● 多様性に配慮した体験・体感型のプログラム実施
	交流	● 文化財防災センターとのネットワーク構築	● 情報プラットフォームの活用による地域とのネットワークの構築	● “ことラー”の自発的で多彩な活動による新たなコミュニケーションの創出
	人材育成		● 応急処置や修復に関するボランティアの育成	● 学芸員やアーティストなどを目指す人の育成支援 ● 展覧会やワークショップ等に関するボランティアの育成